

# 寺崎組新聞

発行所 寺崎組新聞社

## 台風17号来るの巻

第52回組会報告

以前組新聞に載った京都からの手紙、泣かせる文面でした。新参者の参加をどうも一言前に既成組員はせめて年に一回くらい足を運んでもいいんじゃないかと思いましたが、世の中、情熱が持続せん人達には踏み込めぬ世界があると思ふ。「継続は力なり」だぞい。しかし、そんな情熱なんてものは台風で吹き飛ばしてしまふものなのですか？西からの参者は僕一人だ。

9月21日曇り空の中、6月に下ろしたXR400に家財道具を積み上げ、岐阜はJR中央本線恵那駅前12時過ぎ到着。あわね、地下鉄さんが屋台広げてる。見守る面々はSX組長、作ったXR400石原さん、BMW北脇さん。あつーミさんが来ていない。どうしたかと聞くと、Fスプロケットがキラウエア山だとの事（富士山からエレベースト、マッターホルンでキラウエアとなるのがスプロケットの一生なのさ）よく来たね、ここまで。そこに金子さんレイド現れる。地下鉄さんは石原さんに連れられて近くのバイク屋に有り合わせ処置に、その間に暇人4人は駅前昼食。地下鉄さんババ改が直りいざ出発の6人衆。すぐに買い出し済ませ恵那山方面へ。意味無しゲート（ナンバー鍵が掛かっているが番号がゲートの柱に書いてある）を越え阿木林道より入山。乙女谷林道を下り、恵那山林道に南より進入。そこで雨がポツポツと降ってきたが、もうそこは野宿予定地、石碑のある広い場所だ。激しくなる雨の中、円形にテント設置し、ドカンタープをかぶせれば今夜の宴会場の完成。陽が傾くにつれ風雨は激しくなるばかり。しかしめげないこの面々。鳴々これがみゆきファン3人衆なのね。銃や第2次大戦機の話にも花が咲く。寺崎組ってマニアの集り所だっ

たのね（前から知ってたけど）。

野宿地にて、帰途と連泊する人達



翌朝より昼まで風雨は荒れ続く。うん、動くに動けん。皆、停滞の構えである。連泊必至で、買い出しのあみだくじ。しかし、僕は西へ帰るのでありました。荷をまとめた頃、雨がやんだ。

前日走行中、酒・水を落とし、その上ゴミを持ち帰るのを忘れてしまいました。ゴメンナサイ・スママセン（組員の恥だ）。もう一つあやまらなければならぬ事。あの時何も言いませんでしたがどうも僕、結婚するかもしれないです（一同「オーッ」）以下次号へ（続かんと思ふ）。

トレイルの北海道編を今だに探しているマニア米倉

### モンゴルからの手紙



お元気ですか？

手紙の届く、この日の日光で挨拶として、親切な、にっこりを送っています。

今 UBで、日和がよいですが伝染病が起って、ある所に隔離病院などが組織されたり、気車も走らないように、なったりして、います。それは新たに選ばれた政府にだけなく、人民にとっても一つの、大きい、勸告になってい

私、あなたに送った本とお手紙を、もらって、大層喜んで、返事を、書きたい書きたいと、思っていました。が、できませんでした。期間は、掌を反す、間もなく、流れ過ぎるもので、ありますね。夏休で、通訳として、いろいろな、ところに、行きました。9月1日、進学年が、始まりです。今年、昔話に、本訳して、編集局に、あげよと、思っています。今回の、手紙で、モンゴルの、新聞を、訳して、送る、ことが、できませんでした。でも、送ります。

奥さんは、タイから、帰国しましたか？ モンゴルに、来て、滞在すること、について、聞いて、見れば、どうですか？

今度は、急ぎました。次は、ゆっくり、面白い、情報の、いっぱい、手紙、書きます。

日本の、鋭関組織に、ついて、報道が必要であります。どうするの、がよく、わかりません。もし、都合がよかったら、一般的な、紹介の、データ（事実）、送って、下さい？

鋭関組織の日。その上、私は、卒業したから、鋭関吏、なるつもりです。ご一緒の、皆様に、よろしく、お伝え、ください。

1996年8月24日。

野口おやじの若い娘を、だまくらかす方法、五ヶ条

第一条、丁度良い年齢とは、まずターゲットは23才と26才頃、つまり女性の適齢期は2回、24才と28才にあるから、ややこれ以前にアプローチしておく事。情報はあらゆるつてを、経験から、可能な限り仕入れる事。私の確立したと思ひ込んでいる世界と金銭感覚及び、男を手玉に取る事を術として、ケツの毛までむしられる恐れがある。全てがそうでは無いが、この手の「くノ一」に惑わされる様では一流の野宿人とは言えまへん。

第二条、下手な鉄砲数打ちや当たる。これは、おなごを、手当り次第に洗い出して、消して行く。そして第一から第五希望までを考えたら、デートに誘うが、まず趣味が似ていて、フットリングが合うと思つたら、先ず成功である。この時、第一条で仕入れた情報を活用し、表面的な話から自分の悩み事等を、ボツボツ話す様に成つたら本命!! 先ずは彼氏が居てもアタックあるのみ!!

第三条、話は相手に合わせよ!! 話の内容は相手の取付き易いものから入り、うまく合せよ。決しておたく話などは、してはならない。それでも自分のペースに持って行くが、決してデレデレしてはならない。主導権は男に有るのでせよ!!

第四条、資金は十分に準備すべし。とにかく彼女の好きな事をさせてやる。不足の人は、御近くの信用金庫ローンで50万程都合する事。必要と有らば、私が御相談のります。

さて使い方が、先程の「くノ一」だったら、大変な事になるので、相手の様子を良く観察する事である。もし該当するなら二回目、バイバイせよ。

第五条、三回会ってくれたら、直ぐ親に会いに行け!!。相手は三回も付合ってくれれば、言う事は電話番号は勿論の事、住所や素性等、知抜いているのだから、これはもう手土産片手に、両親に挨拶に行くし、かありませぬ。そして、もう八割方成功した様な物です。あと父親を陥落させるのは時間の問題です。例えぶん殴られても懲りずに何回でも行きます。それと情報収集も怠りません。はいけません。両親の趣味、好物、誕生日等、詳細に聞いておきましょう。前記のプロセスをクリアすれば貴方の未来は明るい物に成るでしょう。以上、五ヶ条申し述べます。

健康を祈る!!。

二六二号 野口

### うなぎのバイク屋日記

夏になるとやれタイヤ交換だ、グリスアップだどビット前まで常連客が騒がしくなる。中にはツーリングに出掛ける前日になってやる奴もいる。

「この部品ない？」なんて言ってきたも、そんな消耗品じゃない物はあるわけないのである。

ある客など日ごろ手入れをしているのだが、こういう時に限って、致命的なトラブルを起したりする。

さらにひどいになると、それが立て続けに起きて秋までバイクはお預け、なんて事も。

一ヶ月前には整備しろよなんて言っても当然する訳も無く、すべてのしわ寄せは私に襲い掛かってくる。錆びたステムベアリングにグリスを詰め込み、握力養成ギブスとなったクラッチワイヤーにオイルを通し軽くする。部品が間に合わなければ解体車からひっぱがして取り替えることもする。

ウチの店は基本的に、自分のバイクは自分で直せるといふ方針である。オイルやタイヤは云うに及ばず、フォークオイル&シール交換、人によってクラッチ交換もやらせる。

自分でいじることによって構造を理解し、今後似た様なトラブルが起きたときに対処できるようにする（はずである）。また分解する過程で、店長やわたしがチラリと漏らすコソコソを盗むこともできる。

例えば、スイングアームにボットンシャフトなどは結構錆び付いているものが多い。簡単に拭くことができない。そこでハンマーでブツブツ叩くことになり、その音が、シャフトのねじを痛めないためにナットを半分くらいねじ込んでこれを叩く。そしてナットがフレームに当たったら、最低3山残してまた叩く。

この時点でほとんど動かない場合は、浸透性のあるオイルを流し込んでしばらく放置する。その後ナット側を叩き、少し動いたら反対のシャフトを叩く。そしてまたナット側を叩く。これを繰り返して、錆を崩してシャフトを抜く。ナットを外してフレームに達したら、丈夫でなるべくシャフト径に近い棒（Tレン、いらぬシャフトなど）を介して叩けばOK。

シャフトが錆びていれば当然ベアリングも錆びている可能性がある。ベアリングも錆びている可能性があるので、因にベアリングのほとんどが圧入されているので、交換は個人では無理といっている。シャフトが抜けなかつたら、一旦元に戻しバイク屋へベアリングを注文しに行こう。部品がきたらシャフトを抜く作業をする。

### 寺崎 勉 遂に

インターネットにデビュール!!

アウトライダーで活躍中の須藤氏の主催するホームページ「RAMBLE」の中に寺崎さんのコーナーが有りです。組員なら一度はアクセスしよう!!

http://www.ramble.com

### オーストラリア事情

オーストラリアでは奥地に入ると、ものすごく多い蠅に悩まされる。バイクを止めてヘルメットをとると、とたんに蠅だらけ。そのため顔の近くで手を振らなければならぬ。これが「Fly-baiting」である。4WDで旅する人達が皆僕にむかって手を振ってくれてると思つたら蠅を追っ払ってただけだったのだ。

そこで奥地のオーストラリア人が明したのが、何やら変な物がぶらさがっている帽子。ツバの先からひもでコルクや木切れがつけられている。このコルクを「doobers」と呼ぶ。

さて、オーストラリア英語の発音の特長一つとして標準母音「二」が「三」となり、例えば「can」は「cain」でなく「[kain:]」と発音され（キヤントーカン）イギリス英語の標準音ほど口を大きく開けない。これはイギリス人が最初にオーストラリアにやってきた頃、蚊の飛び込むのを防ぐため口をできるだけ開けないでしゃべった習慣の結果であるという。

By: T.M.B.R



